

サイヤブリダム メコン河に迫り来る危機

インターナショナル・リバーズ

中国より下流のメコン本流でのダム建設計画が、現実味を帯びてきた。1995年、タイ・ラオス・カンボジア・ベトナムは「メコン協定」を結び、本流でのダムプロジェクトに関して、近隣国への告知、協議、そして合意を得ることを取り決めた。ラオスは、北部サイヤブリ県で、サイヤブリダムの建設に向けた手続きを始めた。本稿はインターナショナル・リバーズのまとめた『THE XAYABURI DAM: A LOOMING THREAT TO THE MEKONG RIVER』の翻訳である。原文はこちらから参照可能 URL <http://www.internationalrivers.org/en/node/6128>



ラオス北部の山間の溪谷に提案されているサイヤブリ水力発電ダムは、メコン河本流の下流域において計画されている11のうち最も進行しているダムである。建設された場合、同ダムは何百もの人々に食料を供給している大河に取り返しのつかない永久的な生態系の変化を引き起こし、2100人を越える強制移住、202,000人を超える人々への直接的影響をもたらし、またメコンオオナマズのような象徴的かつ生存の危機にある魚種を絶滅へと追いやるであろう。

メコン河下流の独特な毎年の洪水サイクルは、タイ、ラオス、カンボジア、そしてベトナムの国々が共有する広大で複雑な生命網を支えている。メコン河は世界でも最も生物が多様な水系のひとつであり、世界でも豊かな淡水の漁場を抱えている。しかし、数千万人の人々に収入と食料をもたらすこの素晴らしい資源は、本流にサイヤブリダムを建設する提案のために、取り返しのつかないほど永久に河を変化させる可能性がある危機にさらされている。

ラオス北部のサイヤブリ県の山間に離れて位置するサ

イヤブリダムは、メコン河本流の下流域で提案されている11の計画中のダムのうち最も進んだ段階にある。2010年9月、同ダムは、メコン河委員会によって促進されている「通知、事前の協議および同意の手順」(PNPCA)と呼ばれる地域の意思決定プロセスを通じて、地域の政府による承認を得るため提出された最初の本流ダムとなった。

承認された場合、同ダムは地元、そして流域全体に河の水産資源や漁業への深刻な環境被害を引き起こすであろう。約2,100人の人々がプロジェクトによって移転させられ、また202,000人以上のダム付近に住む人々が、農地や川岸の菜園を失うことによって、また河での砂金採取をやめることによって、また野生のバナナの花やラタンなど森林からの生産物へのアクセスがより難しくなることによって、生活、収入、そして食の確保への影響に苦しむことになるであろう。ダムによって河の生態系や漁業に起こる変化は河川域全体を通じて体感され、何百万人もの人々に影響を与えることになるであろう。

サイヤブリダム

メコン河の河全体を横切って伸びる810メートルの長さのサイヤブリダムは、ラオス北部のサイヤブリ町のおよそ30キロメートルのゲルアン早瀬に位置する。プロジェクトは、1,260メガワット(MW)の電力を発電する予定で、その95%はタイに輸出されることとなる。

ラオス政府はプロジェクトを率いる開発業者であるタイのチョー・カンチャン社(Ch. Karnchang Public Company)との覚書(MoU)に2007年5月4日に署名をした。ラオス政府、ラチャブリ・エレクトリシティ・ジェネレーティング・ホールディング・カンパニー(Ratchaburi Electricity Generating Holding Company)、EGATインターナショナル社を含む、投資の可能性のあるその他の投資家たちとの協議が現在進んでいる。ダムは建設に4年を費やし、その費用は約35億USドルと見積もられる。

MoUの後、プロジェクト開発協定がラオス政府とチョー・カンチャン社との間で2008年11月に署名された。一方、プロジェクトの環境影響評価(EIA)報告書が最初にラオス政府に2010年2月に承認のために提出された。売電契約のための覚書は、その後2010年7月にタイ発電公社(EGAT)とラオス政府の間で署名され、



サイヤブリダムの位置

EGATが1,220MWの電力をキロワット時につき2,159パーツの費用で、サイヤブリダムからタイの北東部ルーイ県までの200キロメートルの長さの送電線を通じて購入することが許可された。

EIAのようなプロジェクト文書がまだ公開されない一方で、プロジェクトは2011年3月までにカンボジア、ラオス、タイ及びベトナム政府による承認を得ることを現在期待されている。1995年のメコン協定に従って、これらのメコン河下流域国は、本流で提案されたプロジェクトに関して近隣国への告知、協議、それから合意に達することを求める議定書に合意している。2010年9月、サイヤブリダムはPNPCAプロセスに着手する、これまでで最初のダムとなった。MRCによって委託された、主要な戦略的環境アセスメント(SEA)報告書の公開に3週間先立ったアナウンスでは、プロジェクトに関連した大規模なリスクと影響があるため、サイヤブリを含む本流ダムに関する意思決定を10年延期することを勧告している。この明らかな勧告にも関わらず、意思決定プロセスは前進し続けている。

水生生物多様性と漁業生産性への危機

建設された場合、サイヤブリダムは、メコン河の豊かな種の多様性をリスクにさらし、河の生態系や生息環境に永久的な損害を与えるであろう。少なくとも41の魚種が深刻な生息環境の変化のために絶滅の危機にさらされる。サイヤブリダムはまた、ラオスのルアンパバン、タイのチェンコン及びチェンセンへのメコンの上流に遡上する少なくとも23の回遊魚種に不可欠な回遊ルートを妨げ、これらの魚類にとって必要な産卵、繁殖、成長を含むライフサイクルを崩壊させる。そのような絶滅に追いやられる可能性のある回遊種のひとつが、深刻な絶滅の危機にあり象徴的なメコンオオナマズである。

同ダムは、既に中国にある河の上流部に建設されたダムによって部分的に影響を受けているメコン河の複雑な生態系に悪影響を及ぼすであろう。例えば地元のカモジシオグサ(Kai)の生産は、ダムの貯水池によって損なわれるであろう。カモジシオグサは、魚にとって重要な食料で、また同時にルアンパバンで提供される有名な料理として扱われる淡水の藻草である。カモジシオグサはダムサイトの近くのラオス人女性にとって、メコン河の水位が低く、水が澄む乾期の間の主要な収入源のひとつとなっている。

地域の漁業への甚大な影響にもかかわらず、プロジェクトの開発業者は科学的な合意を無視しており、ダム計画に盛り込まれたふたつの魚道が漁業への影響を緩和すると主張することによって危機の重大さを軽視してきている。さらに、2008年9月以降、そしてごく最近のMRCのSEA報告書で、世界的に有名な漁業専門家のグループは、魚道はメコン河の巨大な生物多様性と魚の多さのために役に立たないと明確に述べている。魚道が特定の数種のために設計される場合でさえ、SEA報告書はサイヤブリダムの32メートルの高さは、魚道が機能する最大の高さを超えていると警告している。

人々と暮らし

ユネスコの世界遺産に指定されたルアンパバンの市街から約150キロメートル下流に位置するサイヤブリダムは、10村2,100人を越える人々を移転させる恐れがある。ダムの貯水池はこの歴史的な街のわずか48キロメートル下にまで広がる予定である。ダムはまた、ラオスの4郡の少なくとも202,198人の農民や漁師の生活に間接的に影響するであろう。また、広く河川域

全体では、多くの数え切れない人々も同様に影響をこうむるであろう。

ダムサイトの近くに住んでいる漁師や農民は、漁業、米作、砂金採取、林産物採取、川岸での野菜栽培を通じて彼らの日常的な需要を満たしている様々な民族グループである。これらのコミュニティ固有の生計手段や生活様式は、ダムによる移転や土地の喪失、また資源へのアクセスを失うような間接的な影響を通じて、永久に変わってしまうであろう。

深刻な影響があるにも関わらず、ラオスとその近隣国において影響を受ける地域の地元の人々はダムに関する情報をほとんど得ていない。ラオスで最も悪影響を受ける人々は、プロジェクトの開発業者から誤解を招く可能性の高い不十分な情報を受けており、懸念を挙げる機会はほとんどない。タイ、カンボジア及びベトナムの上・下流の人々は越境する影響が予想されるにも関わらず、さらに情報を得ていない。

ダムによって土地や家が水底に沈む、また移転させられるサヤブリ県やルアンプラバン県のナーン郡、チョムペット郡の村人たちにとっての将来は、ラオスのダム開発の問題を抱えた前歴のため気がかりなものに見える。15年のうちに4回目の移転をさせられるナーン郡のいくつかの世帯にとっては、将来は特に暗いものである。彼らは最初高地から低地へ、それからいかなる支援も受け取ることなく洪水のために2度も移転をしている。移転プログラムの質の低さ、緩和されることのない環境影響、そして移転したコミュニティや被影響コミュニティのための実行可能な生計手段の選択肢の欠落はラオスではありがちなことである。環境法を実行し、最低限度の社会的セーフガードの公約を満たすための組織の能力、政治的意思の欠落を含むラオスでの多くの未解決の問題が原因で、サヤブリのコミュニティは、貧困に陥った他のダムの被影響コミュニティと同じ道を歩むことになりそうだ。

多くの損失、わずかな恩恵

ラオス政府は、サイヤブリダムが政府の歳入が重要な資源となり、海外投資を呼び込む手助けをし、将来の経済成長につながると信じている。しかしこの議論は、メコン河が、生産性の高い漁業や、食料の保障を満たすために役立ち、また豊かな土壌や水を農業灌漑に提供することを通じて、ラオス及びより広い地域にとって、いかに貴重な経済的、社会的、文化財と既に

なっているか、という認識に欠ける誤ったものである。これらの資源は全て、基本的には再生可能で無償で生産されるが、健全な河川システムに左右されるものである。何百人の人々に引き起こされる環境及び社会的損害に関連するダムの実際のコストと、この損害を緩和し補償するために必要となる社会及び環境プログラムを等しく扱っていないため、プロジェクトの正確なコストは十分考慮されてきていない。

サイヤブリダムの社会的及び環境的成本と利益もまた、人々の間でまたメコン下流の国々との間で公平に分配されることはなさそうである。ダムの影響は、全体的に貧困レベルの高い場所で、生計を河の天然資源に頼るコミュニティに不均等に影響する。同様に、これはラオスの貧困削減目標及びミレニアム開発目標を満たすための進展を危うくする。

タイの重要な役割

サイヤブリダムで発電される電力の目的とする市場として、タイのエネルギー及び電力公共事業の要であるタイ発電公社はサイヤブリダムが建設されるか否か決定する重要な役割を担うであろう。さらに、プロジ

ェクトを率いる開発業者であるチョー・カンチャーン社はタイで二番目に大きい株式建設会社である。タイの銀行もまたプロジェクトへの資金を融資することを検討しており、銀行の企業及び社会的責任へのコミットメントをこのプロジェクトが満たしていないのにも関わらず、タイ農民銀行、バンコク銀行、クルンタイ銀行、そしてサイアム・コマーシャル銀行が関心を示している。

タイは国内で水力発電の可能性のある開発を既に多く行ってきており、パクムダムのような過去のプロジェクトの前歴により本国での更なるプロジェクトへの強い反対に直面している。そして代わりに市民社会がより弱く反対が押さえられている近隣国から電力を輸入することを模索している。タイの市民社会は、化石燃料の火力発電所や水力発電ダムといった新規の大規模発電プラントの開発を過度に推進しているタイの電力開発計画に疑問を投げかけている。彼らは、将来の電力需要が過大評価されており、エネルギー計画実行が改善される場合、タイのエネルギー効率の対策、再生可能エネルギー、そして分散型のエネルギーの選択肢の見込みは大きくまた実行可能であると結論付けている。



ルアンパバン周辺では、一世帯につき1日当たり8.50USドルを稼ぐことができる乾期の間の砂金採取は、多くのラオス村民、特に女性たちにとって重要な収入源である。サイヤブリダムが建設されればもはや砂金採取はできなくなる。(写真はイメージ。撮影ラオス アッタプー県)

北ラオスのメコン本流の水力発電カスケード

本流に計画されている11のダムのうち、サイヤブリダムはタイ北部のチェンセンからラオスのビエンチャンまで流れるメコン河に1,100キロメートルの長さで提案されている6つの水力発電プロジェクトのひとつである。この地域は山々と曲がりくねった険しく狭い渓谷として知られている。このカスケードは、その電力のほとんどがタイやベトナムに輸出される予定の7,000メガワット近くの電力を生産することとなっている。

ラオス北部の水力発電カスケードは、増加した海外の直接投資、また改善された河川沿いの航法を通じて地域に利益をもたらすとして推進されてきている。しかしながら、これらのプロジェクトの真実は多くのより暗い将来を表している。メコン河の上流部と下流部が分断されることによって、6つのダムは壊滅的な変化を水界生態系にもたらすであろう。2010年10月に発行されたMRCの戦略的環境アセスメント報告書は、この河川域のおよそ80%が相次ぐ調整池へと姿を変え、貴重な農地や川岸の菜園が浸水することを明らかにしている。さらに、報告書は、漁業のライフサイクルにとって必要な繁殖地や産卵地への生物学的な影響を通じて、この地域が「深刻な貧困化」に陥ると述べている。これは、ラオスの現在の家畜生産の60%に相当する年間のたんぱく質が失われるのに等しい、年間270,000トンから600,000トンの間の天然の捕獲量の損失が見込まれる結果となるであろう。生態系や人々の福利へのこの直接的な影響の規模を考えると、これらのダムは地域の発展に貢献せず、むしろ貧困削



減や健康と栄養を向上し、持続可能な開発に向けた地域のこれまでの成果の多くを損なうことになるであろう。

メコン河の未来を守る

MRCによって進められているサイヤブリダムに関する地域の意思決定プロセスは、早ければ2011年3月に決定されると見られる。深刻な懸念が、メコン地域の地元の団体や地元・地域・国際的な組織及び個人のネットワークであるサーブ・ザ・メコン連合によって挙げられてきた。市民社会グループは、MRC及び地域の意志決定者たちに対して、少なくとも10年間メコン河に関する決定を保留するという戦略的環境アセスメントの勧告に従い、サイヤブリダムを凍結するように求めている。

自由な流れのメコン河は、現在そして将来の世代のための安全保障と繁栄を意味する。情報を得た上で河の運命に関する決定がなされず、著しい知識のギャップと、透明性、市民参加そして説明責任の国際的なベストプラクティスの基準を満たすことへの失敗が、何百人もの人々に利益をもたらすまさにその資源を危

険にさらしている。高まる食料と水の危機に直面している世界では、メコン河の豊かな天然資源を損なうよりも、守り共有するため共に活動することが、地域の意志決定者にとって高い優先順位となるべきである。

インターナショナル・リバーズがやっていること

サーブ・ザ・メコン連合のパートナーとして、インターナショナル・リバーズは、そのような重要な国際河川をせき止めることに関連するリスクについて、地域そして国際的な市民の意識向上のために活動し、また人々のエネルギー及び水の需要に合う、より持続可能で平和的な方法があることを実証する活動をしている。(翻訳 メコン・ウォッチ)